

《ライジング 東京サザンエリア・・・四ヶ領用水地域の躍進》

平成15年以降の人口動態を見ると、羽田空港に近接する多摩川中下流域が、川崎市の顕著な人口増加に牽引され、全国有数の人口増加地域となっています。

多摩川中下流域が拓けたのは、約400年前の1611年（慶長16）、多摩川の左右岸に用水路が開削されてからです。この用水路は、右岸の稲毛領・川崎領と、左岸の世田谷領・六郷領を灌漑したため、四ヶ領用水と名付けられました。（注1）現在の行政区画では、東京側が、大田区・世田谷区・狛江市、神奈川県が、川崎市・横浜市鶴見区となります。

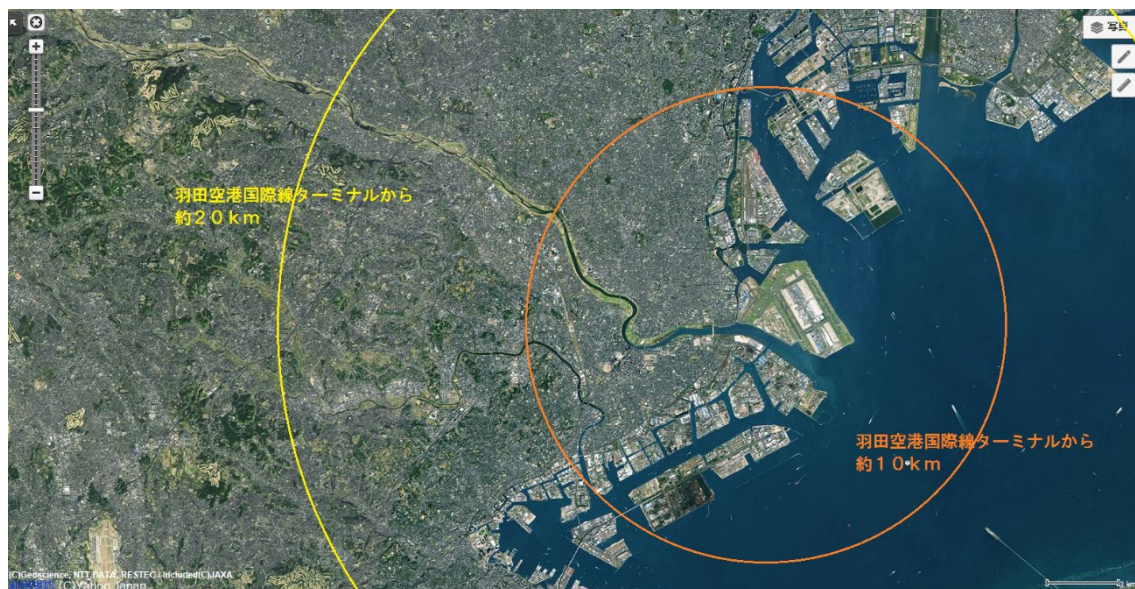
この地域の人口は、パリ市の1.5倍となる約350万人と横浜市に次ぎ、その密度は大阪市とほぼ同じです。特色の一つは、京浜コンビナートを抱えて製造品出荷額等が多く、その額は、横浜市、大阪市、名古屋市の2～3倍規模になります。

この地域を含む多摩川の流域は、世界で次々起こるイノベーションを、いち早く国内に取り入れた地域です。そのイノベーションは、産学官が連携し、また起業家と投資家が連動して成し遂げられていきました。次回から、エピソードも含め点描し、歴史再発見をしてまいります。

注1：徳川家康が、江戸に入府直後に、小泉次太夫に命じて造らせたもの。羽田空港国際線ターミナルから約20km上流から取水され、下流沿岸に灌漑用水を供給しました。現在、川崎市側は、二ヶ領用水として原形を残しています。

写真は、①羽田空港からの距離間を見た空撮写真（yahoo 地図の航空写真図に、細見が半径約 10km、約 20km の円を加筆）②四ヶ領用水関係自治体と最近の人口増加率（細見作成）

①



②

